

‘あすみ’の品種特性

-農研機構発表資料より-

- a. 1992年に果樹試験場興津支場（現 果樹研究所カンキツ研究興津拠点）においてタンゴールタイプ[®]の育成系統であるカンキツ興津46号にみかん品種‘はるみ’を交雑して育成した品種である。2003年より系統名カンキツ興津58号としてカンキツ第9回系統適応性・特性検定試験に供試して検討し、2011年8月の同試験成績検討会において新品種候補とした。2011年12月7日に品種登録出願し、**2012年3月16日に‘あすみ’として品種登録出願公表**された。
- b. 樹勢は中程度、樹姿は直立性と開帳性の中間である。枝梢の長さは長く、太さは中位で、発生密度は中程度である。枝梢のとげの発生は多く、長い。そうか病の発生はないが、**かいよう病に対してはやや弱い**。隔年結果性は中程度である。
- c. **果実は150g程度**で、果皮は橙色で薄い。果面は滑らかで、剥皮のしやすさは中程度で、オレンジ様の芳香がある。**完全着色期は1月上旬**と極めて遅い。浮皮の発生はない。果肉は濃橙色で、じょうのう膜は軟らかく食べやすい。**成熟期は1月下旬から2月上旬**で、果汁の**糖度は15%以上**と極めて高く、**クエン酸含量は1.0%程度となり、食味が良好である**。機能性成分のβ-クリプトキサンチン含量は果肉100gあたり1.66mgと高く、ウンシュウミカンの‘興津早生’と同程度を含む。
- d. 本品種の糖度は高く、土壌及び気象条件に対する適応範囲は広いのでシートマルチによる水分ストレス処理を与えることなく、高糖度果実生産が可能である。また、かいよう病の発生を防止し、着色良好で商品性の高い果実生産のためには**施設栽培が向いている**。なお、施設栽培では裂果の発生を抑制するために、加温開始時期に留意し、また急激な土壌水分量の変動がないよう土壌水分管理に注意する必要がある。

‘あすみ’の果実特性

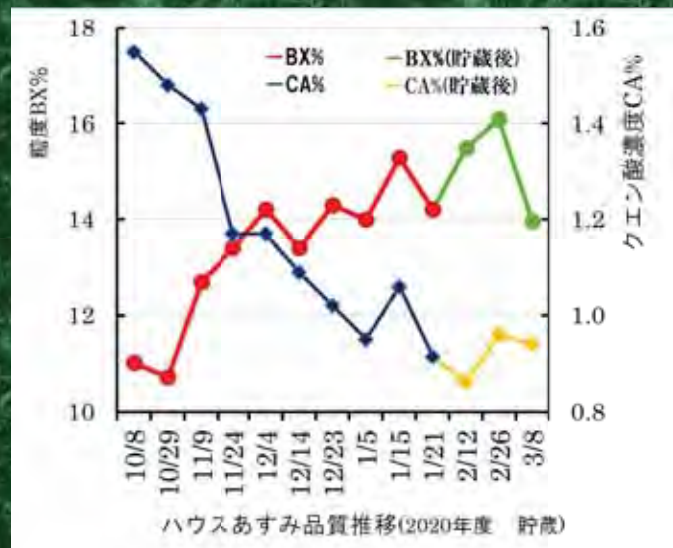
（農研機構果樹研究所カンキツ研究興津拠点 2009-2010年 露地栽培）

品種	果実重 (g)	剥き やすさ	浮皮	成熟期 (月旬)	糖度 (BX%)	クエン酸含量 (%)	β-CR含量 (%)
あすみ	151	中	無	1下～ 2上	15.7	1.03	1.66
はるみ	206	易	中	1下	12.2	1.10	0.84
せとか	194	やや易	無	2下	14.2	1.71	1.51

三重南紀での果実品質と着色

○果実品質

成熟期（2月上中旬）の果実では、糖度15%を超え、クエン酸含量は、0.9%前後になります。糖も高く、酸味も十分にあるため、濃厚な食味となります。冷蔵による貯蔵で数か月の販売延長が可能です。



○果実の着色

11月上旬ごろから徐々に着色し、ハウスでは12月中旬に、露地では1月中下旬ごろに完全着色します。

‘あすみ’栽培暦

月	生育ステージ	基本管理作業	施肥
1	花芽分化	成熟期	土壌改良
2		出荷 収穫	
3	発芽 春枝伸長	剪定	春肥
4	開花 根伸長		
5	生理落果		花肥
6	夏枝伸長	摘果	夏肥
7			追肥
8	秋枝伸長		初秋肥
9	果実肥大		
10		摘果	
11	花芽分化	かん水	秋肥
12	着色	CO2施用	※10a年間施肥量 N-41.2kg P-37.8kg K-33.4kg